

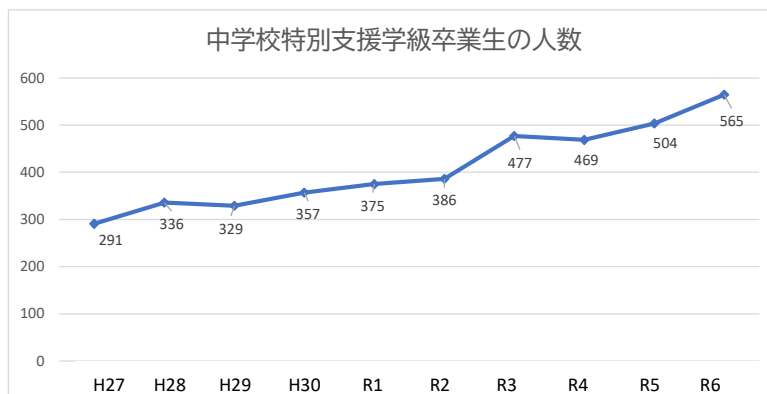
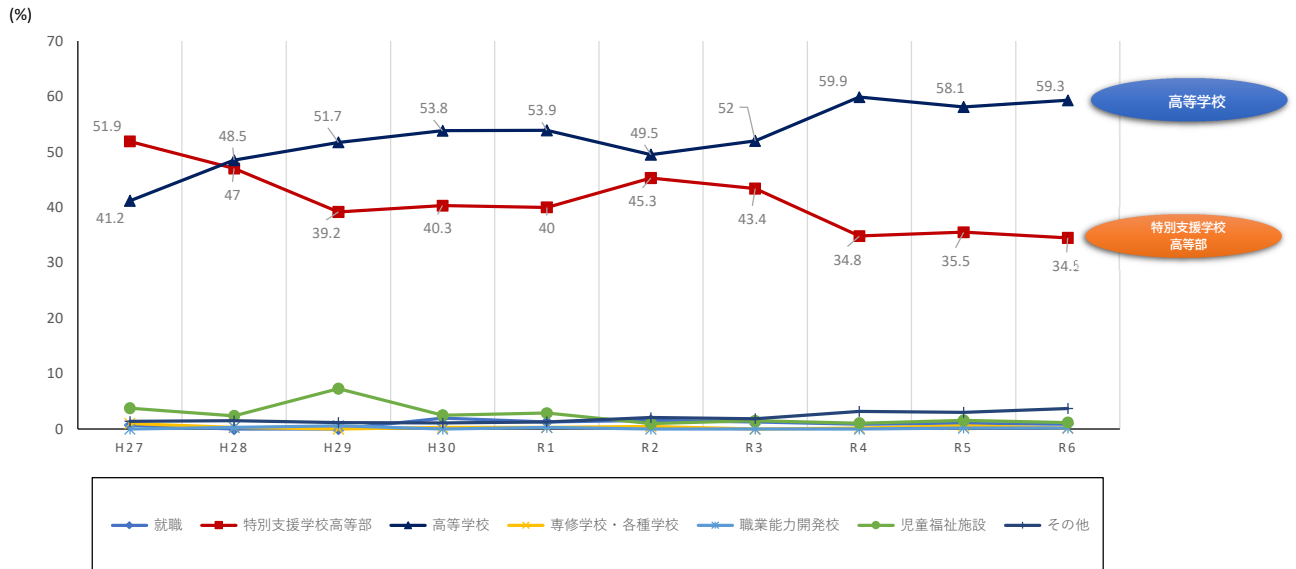
●協議テーマ「支援・配慮を必要とする、一人ひとりに寄り添った学びの在り方について」関係資料

資料3-1	中学校特別支援学級卒業生の進路状況	・・・	1
資料3-2	通常の学級に在籍する児童生徒で発達障害（LD、ADHD、高機能自閉症等）により、特別な教育的支援を受ける必要があると校内委員会において判断した児童生徒数	・・・	2
資料3-3	高等学校における長期欠席の状況等	・・・	3
資料3-4	日本語指導が必要な生徒の在籍状況	・・・	5
資料3-5	滋賀県立大津清陵高等学校における取組	・・・	6

中学校特別支援学級卒業生の進路状況

年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
卒業	H28.3	H29.3	H30.3	H31.3	R2.3	R3.3	R4.3	R5.3	R6.3	R7.3
就職	2	0	0	7	5	6	6	4	5	5
特別支援学校高等部	151	158	129	144	150	175	207	163	179	195
高等学校	120	163	170	192	202	191	248	281	293	335
専修学校・各種学校	3	1	0	1	1	2	0	1	3	1
職業能力開発校	0	1	2	0	1	0	0	0	1	1
児童福祉施設	11	8	24	9	11	4	7	5	8	7
その他	4	5	4	4	5	8	9	15	15	21
計	291	336	329	357	375	386	477	469	504	565

年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
就職	0.7	0	0	2	1.3	1.6	1.3	0.9	1.0	0.9
特別支援学校高等部	51.9	47	39.2	40.3	40	45.3	43.4	34.8	35.5	34.5
高等学校	41.2	48.5	51.7	53.8	53.9	49.5	52	59.9	58.1	59.3
専修学校・各種学校	1.0	0.3	0.0	0.3	0.3	0.5	0.0	0.2	0.6	0.2
職業能力開発校	0.0	0.3	0.6	0.0	0.3	0	0	0	0.2	0.2
児童福祉施設	3.8	2.4	7.3	2.5	2.9	1	1.5	1.1	1.6	1.2
その他	1.4	1.5	1.2	1.1	1.3	2.1	1.9	3.2	3	3.7
計	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100



通常の学級に在籍する児童生徒で発達障害(LD、ADHD、高機能自閉症等)により、特別な教育的支援を受ける必要があると校内委員会において判断した児童生徒数

【高等学校】	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
生徒数	30,089	28,981	28,357	28,143	28,391	27,898
対象者数	1,741	1,977	2,033	2,028	2,162	1,925
割合	5.79%	6.82%	7.17%	7.21%	7.62%	6.90%

※ 特別支援教育に係る実態調査 結果抜粋(県単独・調査)

高等学校における長期欠席の状況等

(令和6年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査(抜粋))

①理由別長期欠席者数(高等学校)

		滋賀県						全国					
		病 気	経済的 理由	不登校	新型コロナ ウイルス の感染回避	その他	計	病 気	経済的 理由	不登校	新型コロナ ウイルス の感染回避	その他	計
令和 2 年度	人 数 (人)	171	3	932	21	35	1,162	16,521	429	43,051	9,382	11,144	80,527
	在籍率(%)	0.45	0.01	2.46	0.06	0.09	3.06	0.53	0.01	1.39	0.30	0.36	2.60
令和 3 年度	人 数 (人)	249	5	1,024	57	103	1,438	22,864	385	50,985	12,388	31,610	118,232
	在籍率(%)	0.68	0.01	2.79	0.16	0.28	3.91	0.76	0.01	1.69	0.41	1.05	3.92
令和 4 年度	人 数 (人)	333	6	1,086	12	99	1,536	30,976	343	60,575	9,256	21,621	122,771
	在籍率(%)	0.92	0.02	2.99	0.03	0.27	4.23	1.05	0.01	2.04	0.31	0.73	4.14
令和 5 年度	人 数 (人)	355	4	1,044		75	1,478	26,268	385	68,770		9,391	104,814
	在籍率(%)	0.99	0.01	2.91		0.21	4.11	0.90	0.01	2.35		0.32	3.58
令和 6 年度	人 数 (人)	269	0	1,070		144	1,483	26,488	313	67,782		9,025	103,608
	在籍率(%)	0.75	0.00	2.98		0.40	4.12	0.91	0.01	2.33		0.31	3.55

②学年別不登校生徒数(高等学校)

※全日制の総合学科は単位制で集計している。

		滋賀県						全国					
		1年	2年	3年	4年	単位制	全体	1年	2年	3年	4年	単位制	全体
令和 5 年度	全 日 制	190	229	173		298	890	16,188	15,295	12,313		10,533	54,329
	在籍率(%)	1.8	2.2	1.8		6.5	2.5	1.9	1.9	1.6		2.6	1.9
	定 時 制	1	2	3	1	147	154	639	472	386	295	12,649	14,441
	在籍率(%)	7.1	16.7	27.3	16.7	19.4	19.2	11.4	10.3	9.2	8.8	24.0	20.5
	計	191	231	176	1	445	1,044	16,827	15,767	12,699	295	23,182	68,770
	在籍率(%)	1.8	2.2	1.8	16.7	8.3	2.9	2.0	1.9	1.6	8.8	5.0	2.4
令和 6 年度	全 日 制	241	249	201		241	932	15,506	14,781	12,789		10,052	53,128
	在籍率(%)	2.3	2.5	2.0		5.4	2.6	1.8	1.8	1.6		2.7	1.9
	定 時 制	2	0	1	0	135	138	674	521	394	250	12,815	14,654
	在籍率(%)	9.5	0.0	7.7	0.0	19.5	18.4	11.3	10.6	9.6	8.9	23.6	20.3
	計	243	249	202	0	376	1,070	16,180	15,302	13,183	250	22,867	67,782
	在籍率(%)	2.3	2.5	2.0	0.0	7.3	3.0	1.9	1.8	1.6	8.9	5.3	2.3

③学校内外の機関等で専門的な相談・指導等を受けていない生徒(高等学校)

	受けていない 生徒数	不登校生徒数	受けていない 生徒数 ／ 不登校 生徒数
R5年度	448	1,044	42.9%
R6年度	538	1,070	50.3%

④-1 不登校生徒について把握した事実【高等学校】

区分			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
			いじめの被害の情報や相談があった。	の情報や相談があった。	教職員との関係をめぐる問題の情報や相談があった。	学業の不振や頻繁な宿題の未提出が見られた。	学校のきまり等に関する相談があった。	転編入学、進級時の不適應による相談があった。	家庭生活の変化に関する情報や相談があった。	親子の関わり方に関する問題の情報や相談があった。	生活リズムの不調に関する相談があった。	あそび、非行に関する情報や相談があった。	学校生活に対してやる気が出ない等の相談があった。	不安・抑うつとの相談があった。	障害(疑い含む)に起因する特別な教育的支援の求めや相談があった。	や個別の配慮(13以外)についての求めや相談があった。	左記に該当なし。
全日制	不登校児童生徒について把握した事実(複数回答可)	人数(人)	2	105	13	103	9	74	45	71	133	26	219	155	42	6	0
		割合(%)	0.3	15.6	1.9	15.3	1.3	11.0	6.7	10.5	19.8	3.9	32.5	23.0	6.2	0.9	0.0
定時制	不登校児童生徒について把握した事実(複数回答可)	人数(人)	0	5	1	11	5	9	4	10	54	19	78	155	42	6	0
		割合(%)	0.0	3.6	0.7	8.0	3.6	6.5	2.9	7.2	39.1	13.8	56.5	112.3	30.4	4.3	0.0

日本語指導が必要な生徒の在籍状況

調査年度		H24	H26	H28	H30	R3	R5	R7
滋賀県	生徒数	91	71	76	58	100	113	94(参考)
全国	生徒数	2,410	2,604	3,372	4,172	4,808	5,573	集計中

調査年度		H24	H26	H28	H30	R3	R5	R7
滋賀県	生徒数	0.28%	0.22%	0.23%	0.18%	0.34%	0.40%	0.33%(参考)
全国	生徒数	0.10%	0.11%	0.15%	0.19%	0.24%	0.29%	集計中

※令和7年度数値は未公表

滋賀県立大津清陵高等学校における取組

1 学校の特徴

○ 学校の形態・課程等について

- ・ 昼間定時制、夜間定時制、通信制の3課程がある普通科単位制高校
- ・ 前期・後期の2学期制
- ・ 必履修要件を満たし、74単位の修得と特別活動の成果が認められることにより卒業

○ 単位制高校の特長について

- ・ 学年の区別がなく留年がない
- ・ 3年間で卒業することも可能
- ・ マイペースの学習が可能

○ 生徒の在籍状況

- ・ 中学校や前籍高等学校時代に不登校等を経験した生徒、家庭的また経済的な課題を抱える生徒、学力に課題を抱える生徒等、様々な課題を抱えた生徒が多数在籍している。
- ・ 発達障害等により、特別な教育的支援を必要とする生徒が多数在籍している。
- ・ 基本的な生活習慣や学習習慣が確立できていない生徒が多く見受けられる。
- ・ 昼間部においては他校からの転入学や編入学生が多く在籍している。
- ・ 夜間部においては外国にルーツを持つ生徒が、常に一定数在籍している。
- ・ 通信部においては仕事を続けながら学ぶ生徒が在籍しており、年齢もさまざまな生徒が在籍している。

2 大津清陵高校の取組

○ 授業について

- ・ 学力的に課題を抱える生徒が多く、また学力差が大きいことから、習熟度別授業を実施している。【昼間部、夜間部】
- ・ 国語、数学、英語の各教科のスクーリングで「基礎科目」を設け、中学校の復習内容も含めた内容を実施。【通信部】
- ・ 学習歴や生活環境等が様々な生徒の実態を踏まえ、生徒の能力、適性、興味・関心、進路等に応じて選択履修できる教科・科目を開講。【昼間部】
- ・ 課題レポートの余白や裏面に生徒からの質問等を記入し、それに対して教員が回答することで課題レポート作成が困難な生徒への対応をおこなっている。【通信部】

○ 教育的支援を必要とする生徒への対応

- ・ 外国にルーツを持つ生徒に対し、日本語の運用力の向上を図るため、できる限りマンツーマンに近い形で学習を進めている。今年度は、「日本語」(週2時間)の授業において、受講生徒14名に対し、本校教員4名に加え、滋賀大学准教授、滋賀大学教職大学院生、在日外国人、社会人講師、滋賀県総合企画部国際課職員の10名を外部講師として招き、合計14名で開講している。(夜間部)
- ・ 他者とコミュニケーションを取ることが苦手な生徒も多数在籍するが、授業の中でペアでの対話などをする機会を設け、各生徒の課題解決につなげている。(昼間部)



- ・問題行動やいじめを未然に防ぐため、生徒一人ひとりについて一月に1回程度、情報交換会を行い、全教職員が生徒の状況について共通理解を深め、生徒指導している。【夜間部】
- ・スクールカウンセラーによる面会や電話によるカウンセリングに加え、登校できない生徒・保護者対応として、ZOOMによるカウンセリングができる環境を整えている。【通信部】
- ・発達障害等、特別な教育的支援を必要とする生徒に対し、個別の教育支援計画を作成し、特別支援教育コーディネーターを中心に対処を進めている。【昼間部、夜間部、通信部】

○ 生徒指導

- ・基本的な生活習慣の定着に向けた指導や社会性やマナーを含めた規範意識を身に付ける指導を実施。【昼間部、夜間部】
- ・スクーリング時の学業妨害行為等、他人への迷惑行為時に指導を行う。【通信部】

○ 進路指導

- ・4年制大学・短期大学・専門学校等への進学や、就職を希望する生徒など多岐にわたっているため、個々の生徒の進路希望に応じ、個別にきめ細やかな指導を行っている。例えば、進学希望者には、学力向上に向けた教科の個別補習や模擬試験の案内や推薦入試等に向けた個別指導等を行い、就職希望者には就職講座を開催し、面接指導や書類作成指導等を行っている。【昼間部、夜間部】
- ・就職講座を開催し、学校斡旋による就職を希望する生徒については、ガイダンスを含め、進路課を中心に、段階的に指導している。【通信部】

○ 家庭・関係機関等との連携

- ・様々な事情を抱えて入学してくる生徒を適切に指導するため、家庭との連携を密にし、担任・生徒指導課（生徒支援）、特別支援教育コーディネーター、スクールカウンセラーが個人面談・相談を適宜実施している。
- ・必要に応じて外部の関係機関（医療機関、少年センター、児童相談所、保護施設、警察、家庭裁判所等）と連携を取りながら丁寧な指導に努めている。

3 今後の課題

- ・様々な事情を抱えて入学してくる生徒を適切に指導するため、家庭との連携、特別支援教育コーディネーターやスクールカウンセラー、外部の関係機関等との連携を取った指導が必要。
- ・外国にルーツを持つ生徒の在籍数が増加傾向にあり、日本語の読み書きができない生徒や出身国により英語が分からない生徒もいることから、学校設定教科「日本語」の指導者の確保等、指導体制の整備が必要。【昼間部、夜間部】
- ・通信部において、北部地域からの入学生が少ない。【通信部】 (人)

居住地	大津	南部	甲賀	東近江	湖東	湖北	高島	県外	計
R6 在籍生徒数	246	180	105	63	68	57	14	6	739
R5 在籍生徒数	233	164	109	48	72	68	14	11	719